

全国学力・学習状況調査の調査結果について

太子町立中学校

1, 調査の概要

本調査は文部科学省が、学校の設置管理者の協力を得て実施しているものです。本年度については、全国 30%の抽出調査としており、本校は抽出校に当たりませんでした。希望調査として実施しました。採点については採点基準に基づいて行っております。本調査の目的は生徒の学力・学習状況を知り、今後の学校教育に生かすことにあります。調査の内容は「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」と「教科に関する調査」より構成されています。調査対象は中学 3 年生で、本年度は平成 22 年 4 月 20 日（火曜日）に実施しました。



2, 結果と分析

(1)質問紙調査

基本的な生活習慣

朝は部活動の関係で早起きしています。7時までには 86%の生徒が起床していて、府・国平均よりはるかに早起きです。夜は塾の関係でやや全国より遅く寝ている傾向があります。朝食はしっかり取れているようですが、夕食は毎日ではないが個食なのは、塾の時間の関係で家族と一緒に食べていないことが伺われます。睡眠時間は、朝練・塾の影響で全国平均より多少短くなっています。太子中生は全体的に早起きです。

生活スタイル

携帯電話の所持率（67%）や使用頻度は、全国平均より高いが、前年度より改善されています。テレビや DVD については 1 日 2 時間以上視聴する生徒が 60%います。読書については大きな課題で、読書への興味や時間については決定的に少なく、全くしない生徒が 57%います。国語の学力テストにも影響が出ていると考えられます。また、学習塾に通っている生徒の割合も非常に高くなっています。ノートはきっちり取るなど授業にはまじめに取り組んでいます。

家庭学習・生活意識

授業の予習や復習といった家庭学習はあまりしていません。学校以外の学習時間のほとんどは塾で行われていて、家庭学習の習慣が付いていないようです。塾に頼っている傾向が見られます。

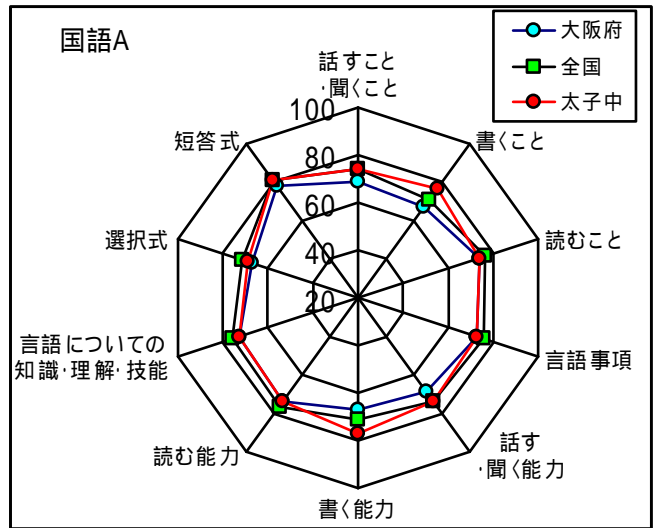
一方、友達との約束を守る、困っている人を助ける、いじめはいけないということをお大切に思う生徒が多く、自分には良いところがある（自尊感情）、将来の夢や目標を持っている（自己実現）についても高い割合を示しており、落ち着いた温かい状態が伺われます。また、地域への関心を持っています。

下校後の時間は、塾に通い、遅くに帰り、夕食を一人で取ります。帰宅後もテレビを見たり、携帯を使用したり、テレビゲームをしたりと忙しく、読書や予習・復習をする時間などありません。

(2) 学力調査

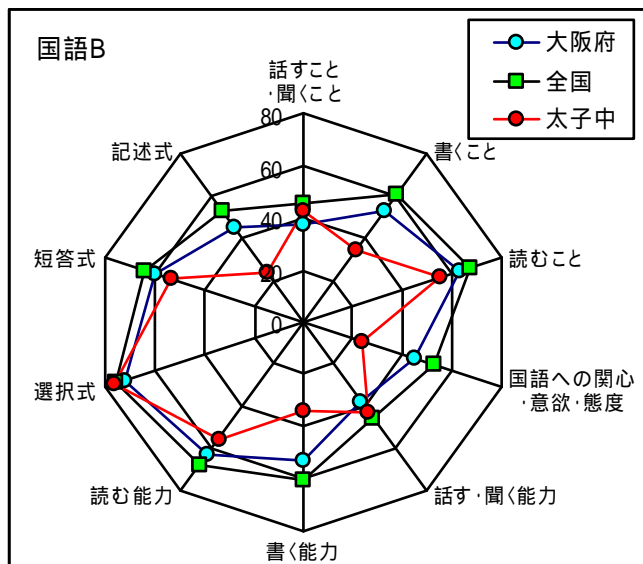
国語A

国語Aでは、全国平均と大きな有意差は見られませんでした。「分類・区分別の集計結果」においては、「書くこと」「書く能力」の区分で全国平均を上回る顕著な有意差が見られます。個別の設問を見ていくと、「言語事項」の領域にかかわる問題で課題が認められます。漢字の読み書き・語句の意味という国語の基本となる項目だけに、適切な対策をとる必要があります。反復学習や書き取りテストを継続的に行い、総合や特活・道徳なども含め文を書く際に誤字脱字を指導するなど、学校全体としての取組みが大切です。また、活字に接する機会を増やし、文章の中で言葉の意味を知り、語彙を豊かにしていく必要性も感じます。図書室の利用率をあげる取り組みを進めると共に、生徒の多様な趣味にこたえるような本や文章の紹介、文章の中から生徒が要点を探していく授業形式もさらに取り入れていく必要があります。



国語B

国語Bでは、全国平均を下回る大きな有意差が認められました。個別の設問についても全国平均を大きく下回るものが多数ありました。特に差が目立つ

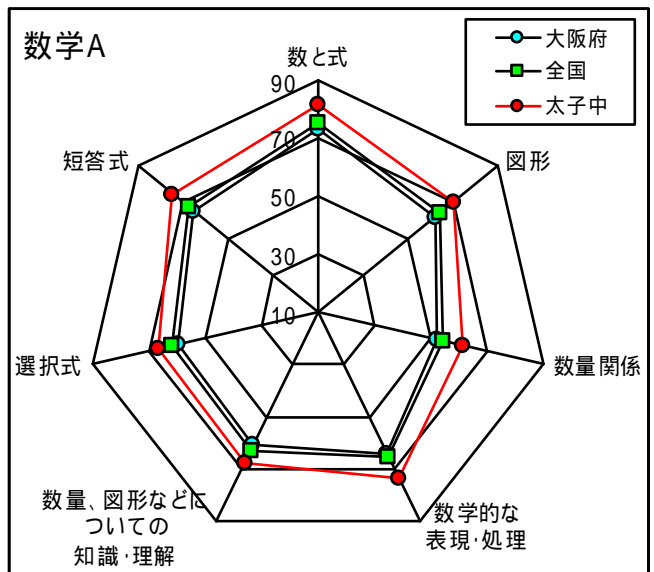


ものは、「記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書く」「文章の内容や表現の仕方をとらえ、自分の考えを明確に説明する」という趣旨の記述式設問で、「自分の考え」自体は書いているが、求められた形式・内容ではなく、問題に正対していない様子が目立ちました。文章を正しく読み取り、読み取ったことをもとに主体的に考え、それを的確に表現する力を育成する取組みが必要です。記述式や短答式の設問でも無解答率は全国平均に比べて低く、意欲的にテストに取り組んでいる姿

勢が伺われます。この気持ちを大切に育てていきたいと思ひます。

数学A

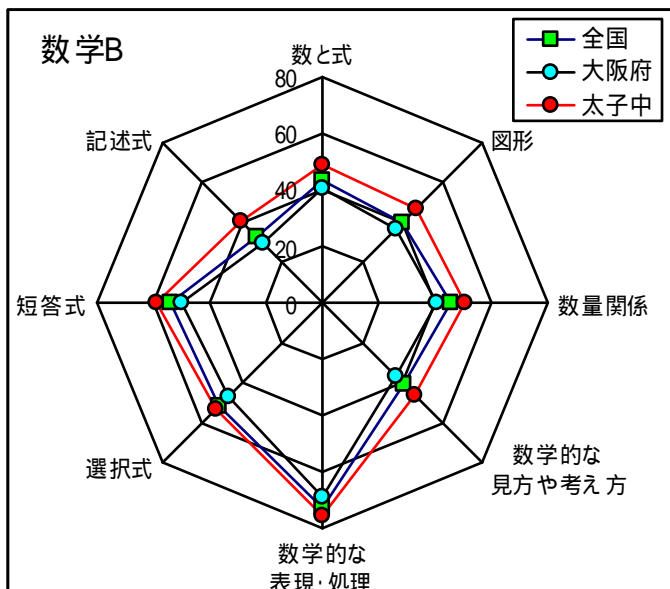
数学Aではたいへん良好な結果です。全国平均を上回る有意差が認められました。「分類・区分別の集計結果」においては、すべての項目で良好な結果を得ています。設問別に見ると、基本的な計算問題では非常に高い正答率を示し、特に分数を含む方程式の計算については、全国平均よりも大きな有意差があることから、基本的な計算力が定着していると考えられます。計算問題や基礎的な知識を問われる問題において非常に高い正答率を示しており、習熟度別での少人数授業を1年時で行っている成果が現れ、基礎基本の定着が高いレベルで行われていると感じられます。また、無解答率が非常に低く、普段の学習で得た知識を使い、何らかの考え方を示すことができていると思われます。知識・技能について確実な定着を目指し、日常的な反復練習などを大切に取り組んでいきたいと考えています。



数学B

数学Bではたいへん良好な結果です。全国平均を上回る有意差が認められました。

「分類・区分別の集計結果」においては、すべての項目で良好な結果を得ています。特に問題形式の記述式の区分で良好です。設問別に見ると、平均正答率がほとんどの問題で全国平均を上回っています。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に表現し、説明する力が備わって



現し、説明する力が備わってきていると考えられます。しかし、筋道立てて考え、事柄を一般的に成り立つ理由を証明する設問においては、全国平均と比べ低い正答率となり、自分の考えを論理的に文章で表現する力をつけていくことが今後の課題であると考えられます。また、無解答率がほとんどの問題で全国平均より低く、自分の考えを表現しようとする姿勢が現れています。数学に対する興味関心度の高さも伺われます。

3 , これまでの成果と今後の課題

今回の学力学習状況調査（希望調査）により上記のような成果や課題が明らかになってきました。希望調査であったため、採点等についてはその基準に基づいて自校で行いましたが、多少の誤差が生じているものと思われます。学力向上については、効果的な授業形態を研究すると共に、学習基盤である学習集団や人間関係の育成に取り組んできました。効果的な授業形態については、平成 13 年度より習熟度別少人数授業を取り入れ授業改革を進め、また、平成

15 年度より「放課後学習チューター」事業を展開し、生徒の自学自習力の向上と個に応じた学習支援に努めるべく取り組んできました。さらに、平成 16 年度より「わが町の誇れる学校づくり」のコアスクールとして小中連携の要となり、個に応じた指導の充実と確かな



な学力の定着を図る取り組みを展開してきました。学習に意欲的に取り組むための基盤となる集団づくりや人間関係の育成についても、文化祭・体育大会などの学校行事や総合的な学習の時間、道徳の時間、また、他校にはない太子中学校独自の取り組みである業間運動やメイクハート運動、全員委員会制度やさまざまなボランティア活動などを通して、よりよい人間関係の育成と成熟した集団作りに努めてきました。

今後、習熟度別少人数授業の一層の充実をはじめとする各教科の授業改善に取り組み、生徒一人ひとりの個に応じた学習を深めることを目指していきます。また、チューター学習会の開催などは、生徒の学習面でのつまづきを早期に解消し、学習意欲を高める大切な取り組みであると考えています。そして、落ち着いて学習できる環境を整えるべく、生徒指導でも「どの子にも、暖かさときめ細かさを持って」対応し、良好な人間関係と成熟した集団の育成をさらに進めていきます。

今回の成果を踏まえ、さらに課題解決に取り組む、太子の土壌に根ざし、良き伝統を伝え、伸びやかに、心身とも健やかに、自ら考え行動できる子どもたちを育てていきたいと思ひます。



な学力の定着を図る取り組みを展開してきました。学習に意欲的に取り組むための基盤となる集団づくりや人間関係の育成についても、文化祭・体育大会などの学校行事や総合的な学習の時間、道徳の時間、また、他校にはない太子中学校独自の取り組みである業間運動やメイクハート運動、全員委員会制度やさまざまなボランティア活動などを通して、よりよい人間関係の育成と成熟した集団作りに努めてきました。

今後、習熟度別少人数授業の一層の充

